

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	令和6年度第4回武蔵村山市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和6年10月31日（木）午後7時から午後8時15分まで
開 催 場 所	武蔵村山市役所3階 301会議室
出席者及び 欠 席 者	出席者：木村会長、荒井副会長、若山委員、夏井委員、押本委員、波田委員、細谷委員、杉原委員、田中委員、小川委員、原田委員、前田委員 欠席者：高山委員、高橋委員、亀田委員 事務局：子ども家庭部長、子ども政策課長、子ども育成課長、児童担当課長、子ども子育て支援課長、子ども政策課子ども政策係長、子ども育成課保育・幼稚園係長 受託業者：株式会社名豊
議 題	(1) 計画素案について (2) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題について (1) 各委員からいただいた指摘事項等に基づき、事務局で検討・修正する。 (2) 次回の会議は、12月中旬から下旬にかけて書面での開催を予定している。詳細については、改めて通知する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)  (発言者) ◎印=委員長 ○印=委員 ●印=事務局	1 開会  2 報告事項 (1) 令和6年度第3回武蔵村山市子ども・子育て会議の会議結果について (2) 子ども計画（素案）第2章から第4章までに係る修正について—事務局から報告事項(1)(2)について説明—  <質疑応答> ◎ 資料4の16ページ項目番号10「保育コンシェルジュ事業」は、第5章において目標値が挙げられ、利用者支援事業の中で「特定型」となっていると思うが、項目番号10の中において、その表記を加えなくてよいのか。 表記を揃えていた方が、利用者支援事業（特定型）が保育コンシェルジュ事業であるとどちらを見ても分かると思う。 ● 表記の仕方について検討する。  3 議題 (1) 計画素案について —事務局から計画素案について説明—  <質疑応答> ◎ 第5章の内容については、事前打ち合わせの際にどのような算出方法に基づいて量の見込みや確保の内容を考えているのかももう少し分かるよう追記が必要ではないか意見させていただいた。その上で、資料5の4ページの「認定こども園・幼稚園・保育所・地域型保育事業・認可外保育施設」についてもどこかに施設数を入れた方がよいと考える。 1ページの本市の状況において、施設数が記載されているとこ

ろだが、内容を見ると、施設は増設しないということなので、各事業の見込み量を説明する箇所でも、何か所で何名受け入れていくかが分かるように記載した方が分かりやすいと考える。

なお、既に何か所で受け入れるか記載されている事業もあるため、整合性をとるためにも改めて確認をお願いする。

また、第5章の内容と第4章の内容とで整合が取れていない事業もある。例えば、保育コンシェルジュは利用者支援事業の特定型だが、利用者支援事業のこども家庭センター型に係る内容が第4章には記載されていない。前回会議においては、第3章及び第4章の内容だけ見ていて気づかなかったが、第5章において量の見込みを記載しているのに、第4章には事業の記載がないものがある。例えば、「養育支援訪問事業」についてだが、その他にもお気づきの点があれば、発言いただきたい。なお、事務局においては、量の見込みを算出している事業が、第3章及び第4章の事業一覧に記載されているかについて、今一度点検いただきたい。

- 量の見込みにおいては、年度区分で進捗しているため、令和7年度から令和11年度までという表現が前提になっているかと思うが、表の右下を見ると「年間延べ」と記載されている。一般的に「年間」というのは暦年というイメージがあるので、その整合性はいかがか。
  - 本計画においては、年度の一年間という意味で使用しているところである。他の計画において確認した際に、「年度延べ」という表現が見つからなかったため、4月から翌年3月までの年間延べ人数ということでこのように記載したところである。
- 前回の計画を見ると、微妙に表現が違うため、分かりづらいと感じる。
  - 前回の計画では、単位について「人日」と表現している箇所があったが、分かりづらかったため、年間延べ人数が何人と表現した方が分かりやすいと思い、このような表記にしたところである。
- 問題がなければこのままでもよい。
  - 「年延べ」というと、1月1日から12月31日のイメージが強いが、「年間」というと、いつからいつまでといった捉え方があると思う。そのため、第5章に記載の量の見込みにおいては、年度表記となっているため、4月1日から翌年3月31日までの年間の延べという意味合いで記載しているところである。

補足説明がないと1月1日から12月31日までと捉えられてしまうかもしれないが、現時点ではこのままの記載としたい。
- ◎ 資料5の7ページの「(5) ファミリー・サポート・センター事業」で、利用を希望する人（ファミリー会員）の量の見込みと確保の内容は記載されているが、サポート会員の量の見込みと確保の内容は記載しなくてよいのか。

サポート会員の確保は、本事業において課題となっていることから、記載した方がよいと考える。

  - 現在、量の見込みとして示している数値は、ファミリー会員とサポート会員がマッチングした数を記載している。
- ◎ 本事業については、利用希望はあるのに、サポート会員が見当たらないため、断るケースもあるかと思うため、サポート会員を確保していくことを示した方がよいのでは。
  - サポート会員については、実数として150人ほど登録者がいる。ただし、本事業を利用される方のファミリー会員それぞれのオーダーに応じた量の見込みについては各々ニーズが異なるため、それを数値として算出できない状況である。

◎ 本事業において記載した方がよいと考える内容については、純粹にサポート会員の数である。実数としてサポート会員が150人いるとのことだが、このまま150人のままでよいのか。5年もあれば、サポート会員も入れ替わっていくと思う。ファミリー会員によって、ニーズや時間帯、回数も様々あると思うが、サポート会員が何人いないと、ファミリー会員のニーズに対応できないといった目標値はいらぬのか。

ファミリー会員とサポート会員のどちらにも属している方もいるかと思う。

本事業における記載内容については、検討いただきたい。

- 資料4の18ページに「ファミリー・サポート・センター事業」の内容が記載されているが、そこで、サポート会員数についての目標値を設定していることから、量の見込みの箇所についてはマッチング数という形で区別させていただきたいと考えている。
- ◎ 資料5の13ページの「(14) 児童育成支援拠点事業」の文中に、「養育環境等に関する課題を抱える学齢期の児童…」という表現があるが、「課題のある学齢期の児童」と記載した方がよい。
- 修正する。
- 児童育成支援拠点事業の表の「区分」がセンタリングになっていないため、修正した方がよい。
- 修正する。
- 資料4の58ページ項目番号188「放課後等デイサービス事業所の確保」について、現状値と目標値が1か所となっているが、本事業については、学校側からも特別に配慮してもらいたいということを希望する保護者が非常に増えていると聞いている。

小学5・6年生になってから中学校に就学する際に、自分が中学校でもクラスに行くことに抵抗感を持ったり、思春期になると色々悩んだりするお子さんがいると聞いている。現に、保育園を卒園されたお子さんでも学校に行った後のデイサービスを中々見つけられない、少ないなどといった話も聞いたことがある。

そのような中、本事業については、現状値と目標値が1か所となっており、また、対象も重症心身障害児となっているが、いわゆる情緒障害などのお子さんのデイサービスの受け皿を増やしていく計画は必要ないのか。
- 放課後等デイサービスの担当課は障害福祉課であるが、本内容に関する部分について、所管課と協議していないことから、本会議において回答できる準備が整っていない。

計画上に記載されている内容については、各課から上がってきたものを記載しているところだが、いただいた御意見について、所管課に伝えさせていただく。
- 新規事業である児童育成支援拠点事業や親子関係形成支援事業などについては、どのような方が利用できるのか。
- 具体的な内容については決まっていないため、これからどのように対応していくかを検討していく事業となっている。
- ◎ 「子育て世帯訪問支援事業」、「児童育成支援拠点事業」、「親子関係形成支援事業」、「乳児等通園支援事業」については、新規事業のため、第4章においても【新規】と記載していることから、第5章においても【新規】と記載した方がよいと考える。
- 【新規】マークを追加する。
- 資料編の18ページを見ると、子ども家庭支援センターや子育て世帯包括支援センターの用語解説が記載されているため、子ども家庭センターも記載した方が分かりやすいと考える。
- 子ども家庭センターの用語解説を追加する。

